

山形駅を出発する開業25周年記念号のとれいゆつばさ

山形市・JR山形駅



つばさ25年力強く

「とれいゆ」臨時記念運行 山形駅などイベント

山形新幹線つばさが1日、開業25周年を迎えた。JR東日本は足湯付きリゾート列車「とれいゆつばさ」を臨時の記念号として運行し、山形市のJR山形駅などの乗降駅では送迎イベントが繰り広げられた。本県と首都圏を結ぶ列車は、この日も多くの人を乗せ力強く走った。

山形駅では午前8時27分一を行い、県や市の観光で歓迎。県おもてなし課の出發に合わせてセレモニ関係者約40人が小旗を振つ「長」きてけろくんが一日



つばさの利用者に「東根さくらんぼ」が振る舞われた
＝東根市・JRさくらんぼ東根駅



観光パンフレットと記念のお菓子を受け取る観光客
＝新庄市・JR新庄駅

駅長を務め、同駅の佐藤俊明駅長と共に列車を見送った。改札前では開業からの歩みをパネルで展示。佐藤駅長は「乗客と地域に支えられて歩んできた」とし、速度向上など利用者の要望については「安全で安定した輸送と併せて考えていきたい」と語った。

とれいゆつばさは新庄駅（新庄市）を出発し、今回初めて東京駅まで運行し

た。新庄駅では市公式イメージキャラクターの「かむてん」や駅員が横断幕を掲げて乗客を見送った。埼玉県上尾市の会社員前川尚子さん(46)は「400系時代からつばさが好き。とれいゆで埼玉まで行けるので楽しみ」と話し、友人と記念撮影を楽しんでいた。

さくらんぼ東根駅（東根市）では農林水産省の地理的表示（GI）に登録された「東根さくらんぼ」を振る舞った。東京方面からの観光客は赤く色づいた佐藤錦を頬張り「おいしい」と笑顔。埼玉県加須市の主婦尾本きょう子さん(75)は「うれしいもてなし。本場の味は違う」。東根市の「タントくん」と河北町の「ベにのすけ」が一緒に出迎えた。

米沢駅（米沢市）では、米沢商業高生や市のマスコットキャラクター「かねたん」「おせんちゃん」ら約30人がお出迎え。小旗を振り、米沢牛のサラミや館山りんごのジュースなどを振る舞った。同校2年佐藤涼太さん(16)は「新幹線は観光振興の要。山形さ、また来てけろっしゅい」と話していた。

山形新幹線は在来線を活用した全国初のミニ新幹線として1992年7月1日に開業。JR東日本山形支店によると、25年間で約700万人が利用した。